

1 当院におけるホルムアルデヒド対策の現  
2 状

3  
4 ○村田 行則 仲間 盛之 荒川 文子 大貫 經一  
5 石田 剛 (国立国際医療センター国府台病院)

6  
7 【はじめに】平成20年3月の特化則の法改正に伴い、  
8 現在、特化則にのっとった、ホルムアルデヒド（以  
9 下 FA）対策が各施設に求められている。今回、我々  
10 は当院における FA 対策と工夫について報告する。

11 【現状】当院の方針として、リスクアセスメントの  
12 基本的手順に沿って、FA 発生源の特定、気中 FA 濃  
13 度測定などを行い、病理検査室をホルマリンエリア、  
14 染色エリア、鏡検エリアと3つのエリアに分け、導  
15 入する機材や配置場所を検討した。

16 ホルマリンエリアは切り出し、カセット詰めなど  
17 を行う場所で、FA の発生源とし、FA 作業をこのエリア  
18 に集約させ、ラミナーテーブルと空気清浄機を設置  
19 した。ここで、吸引出来なかった FA が鏡検エリアに  
20 流れ込まないようにホルマリンエリアから、鏡検エリ  
21 アを遠ざけ、さらにその境にも空気清浄機を設置し  
22 した。導入した器材は、ラミナーテーブルが1台、光  
23 触媒環境浄化装置の大型が1台、中型が3台(そのう  
24 ち1台は薄切室に)、小型をキシレン対策のため机上  
25 に1台設置した。また、病理検査室内の温度管理、  
26 FA 中和シートや吸収パットなども併用している。  
27 解剖室には大型の装置を設置した。この装置の、適  
28 応空間は25~100 m<sup>3</sup>で、FA の分解・除去と除菌機能  
29 もあり、この1台で解剖室は対応している。

30 【まとめ】FA 対策後、気中 FA 濃度は0.1 ppm 以下  
31 と改善した。導入した機材を最大限生かす手段とし  
32 て、作業方法の改良による FA 発散の防止、可能な限  
33 り密閉や隔離などが重要であると考える。

34  
35  
36